

『開創五百年大祭』迫る！

皆様と一緒に祝い

しましよう

今春より、構想を練り続け、何度も打ち合わせを重ねてきた『真成寺開創五百年大祭』まで2ヶ月を切ってきました。大祭のテーマを決め、日程を考え、ポスターを作りました。7月初旬には、総代役員さんをはじめとする実行委員の皆様とも打ち合わせをさせて頂き、そこで交わされたご意見などは非常に有り難く、大変参考になりました。

また、今回の五百年大祭に花を添えて下さるゲストの方々は多岐に亘り、皆様ご多忙の中ではありましたが、『五百年大祭』に「自分が関わらせて頂ける！」と、前向きにスケジュール調整をして頂き、大変嬉しく感謝しておるところでございます。

これまでの「500年」
「これからの「500年」」
檀信徒の皆様には、ぜひ足を運んで頂き、皆様とご一緒に素敵な大祭を開催できるように、切に祈っております。

●【ポスターに込められた想い】

お盆に足を運ばれた皆様をはじめ、既に目にされた方も多いと思います。が、五百年大祭のポスターで、まず

目を引くのは「龍神様」の画像だと思います。

「ご存じの方もおられるとは思いますが、実はこの「龍神様」、真成寺本堂の天井に描かれているんですよ。天井と言っても広い本堂ですから、実際なかなかお気付きにならないのも無理は御座いませぬ。本堂正面の上段（住職が座っている場所）の天井に描かれています。次回、ご参詣になられた折にはユックリと拝んで頂ければ幸いです。

▼この真成寺の本堂天井に描かれた「龍神様」について解説いたします。

本堂は、幾度かの改裝修復を繰り返していますが、「龍神様」がおられる天井のみが、開創以来500年間、全く手つかずとなっております。

昭和三十一年「魚津の大火災」の際、魚津市の大半が焼き払われるという前代未聞の事態が発生しました。瞬く間にお寺の周囲が火に囲まれ、本堂に火の粉が降りかかろうとしていた正にその時に、天井の龍神様が神風を吹かせて、本堂火災が免れたという伝説があります。

切羽詰まったその時の話はこうです。本堂右手には、檀信徒の「お位牌」が祀られています。『位牌壇(いはいだん)』がございいますが、火災当初、近隣の檀信徒の方々が本堂に駆け込んで「これ、本家の御位牌だけでも救出せねば！」と、まだ火の手が回る前の本堂に集まってこられました。

その時です！先々代の住職が「落ち着いて下さい。一緒にお題目を唱えましょう」と言つて、「南無妙法蓮華経！」。南無妙法蓮華経！。南無……と、皆様でお題目の大合唱が始まりました。するとどうでしょう。本堂周辺を焼き尽くした火の手が、いよいよ本堂に降りかかろうとしたその時、どこからともなく神風が吹き来たり、火の手の方向が変わったのだそうです。この時の神風がまさに、檀信徒の皆様で大合唱したお題目の功德が、これまでの500年間、真成寺を見守り続けて下さっている龍神様に届き、神風を吹かせて本堂を守護して下さったのではないかと言い伝えられております。

このお話を耳にした時、自分の心の中に深い信仰の芽が育まれた事を記憶しております。それ以来ありがたい龍神様が真成寺を守護して下さっていることに日々の感謝を抱かせて頂いておるわけでございます。

その歴史的事実を檀信徒の皆様にも認知して頂ける様にとお願いを込めて、今回のポスターにも龍神様を全面に押し出させて頂いたというわけです。その龍神様の上には「**過現未(かげんみ)**」という文字を配しております。

これは**過去、現在、未来**の頭文字を取った言葉で、仏教では専門的に「**過現未**」と申します。過去(前世)、現在(現世)、未来(来世)の「三世(さんぜ)」にわたって脈々と受け継がれてきた、そして受け継いでいく時間の流れを表現しました。

▼「**過現未(かげんみ)**」…過去、現在、未来。前世、現世、来世の三世という事になります。そしてポスターの背景をご覧になって頂くと、実は「自我偈(如来寿命品第十六)」のお経が全文字刷り込まれています。全510文字の「自我偈(じがげ)」です。

皆様もお馴染みの「じがとくぶつらい。しよきようしよこうしゆ。」で始まるお経です。なぜこのお経なのかと申しましたら、お釈迦様のお悟りをそのまま説かれたお経だからです。また、『自我偈』の最初が「自我得仏来(じがとくぶつらい)」から始まっているので、「自我偈(じがげ)」と呼ぶわけです。この自我偈が『法華経(妙法蓮華経)』の中で最も重要な教えとされているのです。その内容とは、仏は人々を救済する為に仮に地上に姿を現されたが、本来は永遠の昔から悟りを開いており、その寿命は永遠である事が説かれています。

その仏のことを、久遠実成(くおんじつじよう)永遠の昔から仏と成っている(の)釈迦牟尼仏(しゃかむにぶつ)お釈迦様と呼ばれています。

そしてこの『自我偈』の経本を、開創500年記念事業の一環として『**法華経自我偈功德聚(お自我偈の経本)**』を作成させて頂くべく、どんどん準備を進めております。

ところでこの『自我偈』は、510文字からなりますが、通常お経本には「自我得佛来」など5文字ずつで区切っており、510文字を5文字で割ると「102組」で構成されております。

そこで、その自我偈を全国47都道府県の中で、布教伝道に日々ご精進なされておられ、かつ御縁をいただいている102名の先輩各聖に「自我偈五文字」の御染筆をお願いさせて頂き、前代未聞の『法華経自我偈功德聚（ほけきょうじがげくどくじゅう）』の完成を目指すことに致しました。この記念本の完成が為されれば、宗祖日蓮大聖人をはじめ、これまで真成寺にご縁のあった檀信徒の皆様方、そして開創500年の証として、真成寺にとっても何よりの宝になるものと確信致しております。

十一月四日の記念本祭では、結集される檀信徒の皆様方と、本堂で奉納式を行い、皆様と一緒に『自我偈』の大合唱をさせて頂ければこの上ない喜びに存じます。どうか御参拝頂き、お一人、お一人が歴史の証人になって頂きたいと思っております。



●【500年を祝して】

今月は二十三日の秋彼岸（お中日）には、例年十時半からのお参りですが、今年は十一時のお参りに時間を変更させて頂きます。そして昼食後には、本堂に祀られてある皆様方の御位牌を位牌壇から下ろし、皆様方と一緒に御位牌のお掃除をさせて頂きます。掃除に關してのレクチャーを、大越仏壇黒部店主の吉岡さんからお話をいただき、適切な掃除を行いたいと思っております。どうか二十三日の秋彼岸会に奮ってご参詣下さいませ。

また「お稚児さん」へのご参加を募集中です。開創500年という記念すべき大祭のよき日に、お子様、お孫さんと一緒にご参加される事をお勧め致します。

申し込み切は、10月15日となっておりますので、ご検討中の方は、締め切りまでにお申し込み頂きますようお願い申し上げます。

合掌 副住職 谷川寛敬

これまでの500年
これからの500年

開創500年祭 ポスター

この一枚に想いの全てを込めました

玉蓮山 真成寺 開創五百年祭

事前祭 10月28日(土) 29日(日)

前夜祭 11月3日(金)

記念本祭 11月4日(土)

富山県魚津市真成寺町4-6
0765-22-2268

自我得佛來 所經諸劫數 無量百千萬
令人於佛道 爾來無量劫 爲度衆生
我常住於此 以證神通力 令願倒衆生
感皆獲覺悟 而生於心 衆生既信
時我及衆生 俱出靈鷲山 我時語衆
餘國有衆生 奉敬信樂者 我復於彼中
我見諸衆生 安在於苦海 故不爲現身
袖蓮力 是於阿耨多羅三藐三菩提
諸天聖王 諸佛菩薩 諸國諸國
憂鬱諸苦惱 如是悉充滿 是諸罪衆生
諸有修功德 柔和質直者 則皆見我身
久乃見佛者 爲說佛難值 我智力如是
女若有信者 斷舍永
我亦爲世
放逸者 五

過現未
— Kagami —

「慈しみ」 第9代 谷川寛敬
「笑み」 第35代 谷川寛敬
「和み」 副住職 谷川寛敬